

茨城県に現存する茅葺き民家の構造と屋根葺き技術の関係性について  
 実地調査と文献調査を中心として

On the relation between the structure of the thatched roof house existing in Ibaraki prefecture and roofing technology  
 Focusing on field survey and literature survey

○塚本留加<sup>1</sup>, 重枝豊<sup>2</sup>, 加藤千晶<sup>2</sup>

\*Ruka Tsukamoto<sup>1</sup>, Yutaka Shigeeda<sup>2</sup>, Chiaki Kato<sup>2</sup>

Abstract: Many the thatched houses exist in Ibaraki prefecture. There is a traditional technique of thatched roof. I could not clarify the relationship between the layout and the technology of the roof at the time of the previous research. Therefore, the purpose of this research is to clarify the relationship between the theory technology and the structure. The results showed the relationship between structure and Tsukuba style roofing by survey and literature survey.

1. はじめに

茨城県には茅葺き民家が 200 棟以上現存する。また、同県の茅葺き技術は他県とは異なったもので、「筑波流」と呼ばれている。この技術は、福島県の会津の茅葺き職人が冬場は豪雪のため、茨城県に出稼ぎにきたことをきっかけに伝わった技術とされている。前稿ではこの技術に関しての考察を、茅葺き職人への聞き取りと民家への実地調査をすることで行うことができた注4)。しかし、その際に技術と平面に関する関係性はなかった。そこで、今回は構造と関係性について検討を加えたい。

2. 研究方法

研究対象として、実地調査した際の民家と「茨城県の民家」より、断面図が記載されている民家を取り上げた。それらを、日塔和彦の架構のタイプ分けを参考に分類し、そこから項目に対する考察を行った。

3. 構造の分類

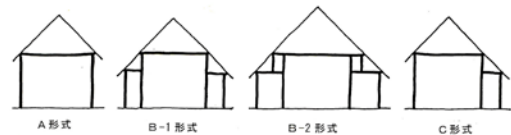


Figure 1. Classification of structure(Quote from Nitto's reserch)

Table 1 Age and classification

名称	所在地	時代	世紀	西暦	日塔先生種別(文献)	日塔先生種別(調査)	独立柱
1 大塚家住宅(居住部)		江戸時代前期		寛文期(1661~1672年)	B-1(前面の下屋根省略)	B-1(背面の梁の高さが低くなっている)	0
2 土肥彦助	新利根村			惟名家より古い遺構	B-2(背面に束なし)	B-2	0
3 小島政一	新利根村			土肥家より若干新しい	B-2(土庇あり)		0
4 都賀豊一	千代田村			江戸初期	B-2変形型		0
5 惟名家住宅		江戸時代前期		延宝2年(1674年)	B-2	B-2	0
6 羽生元信	八郷町		17世紀中期		B-2(背面の上屋根省略)		0
7 旧中山家住宅		江戸時代前期		延宝2年(1674年)	B-2	B-2(背面の上屋根省略)	2
8 鈴木家住宅		江戸時代中期		元禄時代(1688~1704年)		構造部の確認不可	0
9 秋山直	岩瀬町		17世紀後期		B-2(前面に土庇、上屋根1本追加)		0
10 岩淵広周	大和村		17世紀末		B-1(上屋根2本追加)		0
11 中嶋家住宅		江戸時代中期	17世紀(1601~1700年)末期	元禄元年(1688年)	B-2(前面に土庇、上屋根1本追加)	B-2(前面に土庇、上屋根1本追加)	0
12 平井家住宅		江戸時代中期	17世紀(1601~1700年)末期		B-2	B-2	0
13 高岡幸雄	土浦市		18世紀(1701~1800)初頭			B-2(変形的)	0
14 荒井八郎	谷田部町		18世紀初期		B-2		0
15 旧茂木家住宅		江戸時代中期	18世紀(1701~1800)初頭			B-2	2
16 旧福田家住宅		江戸時代中期	18世紀(1701~1800)初頭			B-1(背面の上屋根が上屋根より内に建っている)	0
17 大塚源兵衛	板村		18世紀(1701~1800)前期		B-2		1
18 旧羽田家住宅		江戸時代中期	18世紀(1701~1800)前期		前面:B-1、背面:B-2	前面:B-1、背面:B-2	0
19 坂野家住宅		江戸時代中期	18世紀(1701~1800)前期		B-2(背面の下屋根柱とつながる梁が低い)	B-2(背面の下屋根柱とつながる梁が低い)	5
20 山本家住宅		江戸時代中期	18世紀(1701~1800)前期		B-2(内部に上屋根2本あり)	B-2(内部に上屋根2本あり)	0
21 嶋家住宅		江戸時代中期	18世紀(1701~1800)中期		B-2	B-2	1
22 鈴木仁	八郷町		18世紀中期		B-1(前面の下屋根柱は省略、背面には土庇あり)		0
23 穂積家住宅		江戸時代中期	18世紀(1701~1800)後期	安永2年(1773年)		中嶋家住宅に似た構造	0
24 旧小松家住宅		江戸時代中期	18世紀(1701~1800)後期	安永2年(1773年)		B-1	0
25 旧横田家住宅			18世紀末			B-2	0
26 橋田義雄	大野村		18世紀末		前面:B-1、背面:B-2		1
27 前野家住宅				文化3年(1806年)		構造の確認不可	1
28 細田志雄	板村		天保8年(1837年)大飢饉後のおたすけ普請に成る		B-2(背面の下屋根省略)		0
29 榎本甲松	下館市		天保9年(1838年)		前面:B-1、背面:B-2		1
30 仙波和雄	協和町		普請入用帳(弘化4(1847年)~嘉永2(1849年))		B-2		1
31 旧畑家住宅				安政3年(1856年)より前		B-2(土間部のみ確認)	0
32 綿引家住宅		江戸時代末期				C	1
33 木村家住宅		江戸時代末期		安政4年(1857年)に焼失 それ以前に建てられた		C	0

(参考文献[1]と参考文献[2]を参考に調査データを加筆)

図 1 は日塔和彦の論文から引用した分類例である。これを元に、他の民家も分類したが、旧平井家住宅(No.12)、椎名家住宅(No.5)、旧茂木家住宅(No.15)に関しては修理工事報告書を参考にすると異なる分析になったが、実地調査と日塔が B-2 と示しており、その結果を引用した。表 1 は年代別に分類をしており、大体の民家が B-2 を元に様々な変化をしていることが読み取れる。1600 年代建立の土肥家住宅(No.2)にはすでに B-2 の構造が取り入れられていることから、早い段階でこの構造に変化したことが考察できる。

Table 2 Age and classification

名称	日塔先生種類別(文献)	日塔先生種類別(調査)	妻部分	地域
1 榎木家住宅		構造部の種類不可	無し	熊本
18 旧岡田家住宅	前面:B-1、背面:B-2	前面:B-1、背面:B-2	無し	熊本
23 穂積家住宅		中継ぎ住宅に似た構造	無し	熊本
11 中津家住宅	B-2(前面に土庇、上層柱1本追加)	B-2(前面に土庇、上層柱1本追加)	無し	熊本
21 堀家住宅	B-2	B-2	無し	熊本
24 旧小松家住宅	B-2	B-2	キリトビ	熊本
32 藤引家住宅		B-1	無し	熊本
33 本村家住宅		C	無し	熊本
1 大塚家住宅(居住部)	B-1(背面の下層柱省略)	B-1(背面の梁の深さが低くなっている)	無し	鹿行
15 旧大塚家住宅	B-2	B-2	キリトビ	鹿行
26 山本家住宅	B-2(内部に上層柱2本あり)	B-2(内部に上層柱2本あり)	無し	鹿行
26 横田真雄	前面:B-1、背面:B-2			鹿行
31 旧松家住宅		B-2(土間部のみ確認)	キリトビ	鹿行
2 土肥彦助	B-2(背面に土庇なし)	B-2		熊本
3 小島政一	B-2(土庇あり)			熊本
4 藤原豊一	B-2(変形型)			熊本
5 椎名家住宅	B-2	B-2	無し	熊本
6 羽生元信	B-2(背面の上層柱省略)			熊本
12 平井家住宅	B-2	B-2	無し	熊本
13 菅岡幸雄	B-2	B-2(変形的)	キリトビ	熊本
14 菅井六郎	B-2			熊本
16 旧岡田家住宅		B-1(背面の上層柱が上層桁より内に建っている)	キリトビ	熊本
17 大塚源兵衛	B-2		キリトビ	熊本
22 松本仁	B-1(前面の下層柱は省略、背面に土庇あり)			熊本
25 旧岡田家住宅		B-2		熊本
27 新野家住宅		構造の種類不可	キリトビ	熊本
28 横田忠雄	B-2(背面の下層柱省略)			熊本
1 旧中山家住宅	B-2	B-2(背面の上層柱省略)	キリトビ	熊本
4 秋山道	B-2(前面に土庇、上層柱1本追加)			熊本
10 岩野貞周	B-2(上層柱2本追加)			熊本
19 板野家住宅	B-2(背面の下層柱とつながる梁が低い)	B-2(背面の下層柱とつながる梁が低い)	キリトビ	熊本
29 菅本平松	前面:B-1、背面:B-2			熊本
30 仙谷和雄	B-2			熊本

(参考文献[1]を参考に調査データを加筆)



(表 2 に調査データを加筆)

Figure 2 Distribution map

また、表 2 は地域ごとに民家を並べたもの、図 2 は地図に分布したものである。これらから読み取れるように茨城県南部に B-2 の構造が集中していることがわかる。その理由は、表 3 より筑波流屋根葺きの技術の一つであるキリトビを分布で並べた際に、塙家住宅(No.21)以南に分布することが前稿で明らかにし、会津の職人が出稼ぎに来ていた場所が県南であったためである。そのため B-2 の構造も南部に集中しており、筑波流屋根葺きと B-2 の構造に関係性があるといえる。穂積家住宅(No.23)のみ B-2 構造が使用された理由は、

会津の職人が屋根葺きを行ったためと現管理人の聞き込みにより、会津との関係があったといえる。

Table3 Distribution of Kiritobi

住宅名称	分布	妻部分	由緒
旧飛田家住宅	久慈郡金砂郷村大字岩手	無し	農家
穂積家住宅	高萩市上手洞	無し	豪農
藤木家住宅	那珂市頰田南郷	無し	水戸藩の庄屋
藤引家住宅	水戸市元吉町	無し	庄屋
中津家住宅	東茨城郡内原町割瀬	無し	庄屋
本村家住宅	東茨城郡茨城町長園	無し	庄屋
旧大塚家住宅(居住部)	笠間市片度2149	無し	名主
旧大塚家住宅(土間)	笠間市片度2149	無し	名主
塙家住宅	茨城郡岩間町安房	キリトビ(修理報告書には記載なし)	評元名主
旧小松家住宅	小美玉市下玉里	キリトビ	庄屋
大塚家住宅(居住部)	行方市玉道甲	無し	水戸藩の大山守(山役人)
大塚家住宅(表座敷)	行方市玉道甲	無し	水戸藩の大山守(山役人)
新野家住宅	土浦市永井	キリトビ	名主
大塚家住宅	つくば市栗原	キリトビ	名主
旧横田家住宅	つくば市上大角豆	キリトビ	表記無し
旧横田家住宅	かすみがうら市牛渡	キリトビ	表記無し
椎名家住宅	新治郡出島村加茂	無し	村役
富岡家住宅	土浦市白鳥町	キリトビ	名主
旧茂木家住宅	行方郡牛駈町	キリトビ	頼頭
坂野家住宅	水海道市大生畑町	キリトビ	総名主
旧中山家住宅	岩井市大字辺田	キリトビ	頼頭
旧畑家住宅	行方市麻生	キリトビ	麻生藩家老職(武家の家臣の最高の地位)
平井家住宅	那珂郡新利根村集崎	無し	表記無し
山本家住宅	鹿島郡神栖町奥野谷	無し	評元

(調査データをもとに作成)

#### 4. まとめ

今回の調査によって B-2 の構造と筑波流屋根葺きとの関係性が見出せた。結果として、この B-2 構造が使用されることによって、当時の上屋柱を上屋桁下に建てなくてもよい構造の発展が江戸時代初期にはなされていたとみられる。吉田靖はこの鳥居型の構造に対して、関東東南部の 17 世紀中ごろから後半にかけての古い民家にみられると言っている。確かに、その年代の民家に見られている構造だが、年代を下つてもなお、この構造が使用される。茨城県の屋根を支える構造として適していたともいえる。また、吉田靖は独立柱を抜く過程で下屋構造が使用されるようになったとする。しかし、茨城県の民家には独立柱が現存する民家もみられる。それも年代が比較的新しいものにみられる。これらのことから、茨城県の構造には福島県の技術が根付いているともいえる。

これらのことから、データの偏りがあるため、県北部を含めた民家の分析が重要になる。

#### 5. 参考文献と注釈

参考文献[1]「茨城県の民家(茨城県緊急民家調査報告書)」昭和 51 年 3 月 31 発行 [2]「平井家住宅の構造手法—東関東地方の近世初期民家に見られる特徴—」13 年度「文化財建造物保存事業主任技術者研修会」配布資料 [3]「日本の民家第一巻農家 I」1981 年 9 月 25 日初版発行 [4]「重要文化財平井家住宅修理工事報告書」2003 年 3 月 31 日 [5]「重要文化財椎名家住宅修理工事報告書」1971 年 11 月注釈(1)筆者前稿「茨城県に現存する茅葺き民家の屋根葺き技術に関する一考察—実地調査と茅葺き職人への聞き取りを中心として—」より